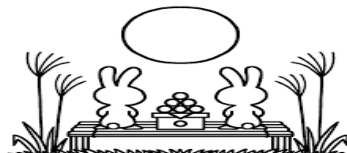


子供の町 だより

創刊：昭和 24 年 11 月
発刊：社会福祉法人 子供の町
児童養護施設 子供の町
児童養護施設 エンジェルホーム
地域小規模児童養護施設 菜の花
住所：〒344-0112
埼玉県春日部市西金野井 337 番地
電話：048-746-0206
FAX：048-746-9215
HP : <http://kodomonomachi.jp/>



「渋沢栄一翁の理念」

社会福祉法人 子供の町
理事長 斉之平 伸一

埼玉県の偉人、渋沢栄一翁が主人公の NHK 大河ドラマが放映されています。渋沢翁は埼玉県深谷市の出身です。渋沢家は農業だけでなく藍玉を作り販売し、地域では有数の豪農でした。その豊かな財産を、渋沢家で独り占めするのではなく、地域全体に恩恵が行き渡るよう運営しておりました。「誰ひとり取り残さない」という SDG s の理念と方向性は同じでした。

明治になり産業が勃発し、資本を所有する経営者の財閥が事業を拡大していきました。

渋沢翁は、これでは貧富の差が大きくなると懸念しました。そこで、日本で初めての銀行を設立し、幅広く資本を集め、経営は専門大学を出た専門経営者に委任しました。所謂、経営と資本の分離を世界でも早い段階で実現しました。

渋沢翁が支援し、設立した銀行、鉄道など 500 社は現在でも日本の産業を支えています。渋沢翁は、財閥から一線を画し、国民全

体が豊かにならねばならぬと渋沢家からは社長をだしておりません。

明治維新の大きな変革期後の明治期には生活困窮者が多く、社会問題となっておりました。渋沢翁は、生活困窮者を救済するのは事業家の義務であるとし、寄付金を集め、東京養育院を運営されました。

渋沢翁は、自分だけ良ければ良いという考え方を強く否定し、国民全体が豊かになる、「誰ひとり取り残さない」という理念で生涯を貫かれました。渋沢翁の理念に深く感銘し、理事長としての子供の町運営の理念としています。

「夏のある日に考えたこと」

社会福祉法人 子供の町
会長 田中文男

少し体調を崩しました。

以前、放射線治療を受けた個所の血管が弱くなり、そこから少しずつ血液が漏れているという。

元気ですが医師の方針で入院。全ての予定をキャンセル。

やはり、健康が第一です。病気になってか

らでは遅い。とは言うものの、私の病気は相当以前のもの。それが原因でまた病気になりました。でも残り少なくなってきた夏をコロナや病気に負けないで楽しみたいです。ね。おかげ様で元気を少し取り戻し、この原稿も書き出せました。

子供の町で生活する皆さんは、私が登山活動を行ってきたことはよくご存知だと思います。でも、専門は何だったかご存知ですか？

専門は遭難捜索。文部省の専門委員なども務めさせて頂きました。

日本は山の国です。富士山をはじめ沢山の山があり大勢の人が登ります。

そして遭難事故が起こる。それも、ちょっとした不注意から。誰だって事故を起こすために山に登ろうとする人はいません。でも起きる。

グループで山に登ります。元気な人もいるし弱い人もいます。

「山頂で待っているよ」

「下山口で待っているよ」

い。「先に行っただろう」「先にかえっただろう」と仲間の到着を確認せずそのまま帰宅してしまう。

家族から「帰って来ないんだけど・・・」の知らせで大あわて。

これを「だろ遭難」と言います。(私の説です)

仲間の安全を確認せず帰宅。これでは仲間と行動を共にする意味がありません。

山ではありませんが保育園児がバスに取り残され熱中症で死亡しました。悲しい事故です。命にスペアはありません。たいていのことは何とかなるかもしれない。しかし、命は返って来ません。「残ってないだろう」

という思い込みより、「念のためだから」と車内を点検すれば防げたのです。これは未必の故意を問われる問題です。将来、起こり得るかもしれない事故を防がなかった、というより大きな過失です。

以前のことですが、保育施設で児童がすき間に入り込み、死亡という記事がありました。「まさか、あんな所に！」の「まさか」です。「まさか」に備えない限り子どもたちを安全に育てることはできないと思っております。

働いて下さる皆さんには厳しいと思いますが「まさか！」だけは起こさないようにご注意ください。

九月に入ると、もう子どもたちの進路ははっきりしてくると思います。

思うような道にはなかなか進めません。

私は大学で学んだのは「日本文学」大学院でも日本文学。でも今は「医療器械のメーカー」が職業。理科系がとても大切となりました。

大嫌いだった英語で海外とビジネスを行っております。「コロナさえなかったら」、年に数回は海外出張。分からないものです。

何十回となく海外に行っているのにパスポートを忘れそうになったり、病気になったり沢山のトラブルを経験しています。問題はミスを起こさないこと。不幸にしてミスを犯したらそのミスをどうやって早く解決するか、それが経験かもしれません。

でも、ミスは注意さえすれば、相当防げます。私も八十七歳来年は八十八歳。子どもたちと元気で遊んで貰える“おじいちゃん”でいたいですね。その為には健康に留意します。



一緒に山へ行こう！
一緒にまたレストランで外食しよう。
会長は、いつも皆さんと一緒にです。



「『地域の親子に寄り添う施設づくり』を」

子供の町 施設長 坂本 仁志

一年遅れで、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、無観客の会場ではありましたが、日本選手の躍進をはじめ様々なドラマが展開されました。開催にあたっては、コロナ感染拡大を危ぶむ声もあり、実際に選手や関係者にも感染者が出てしまったようですが、日々、テレビ映像から伝えられる選手たちの姿は、私たちに、感動や勇気を与えていただいたと感じています。子供の町・エンジェルホームでも、子どもたちに是非、生のアスリートの躍動する姿を見せたいとの思いで観戦チケットを購入していたのですが、無観客となってしまう、その点については、誠に残念な思いでした。

昨年 2 月頃からの新型コロナウイルスによる世界的な感染は、このオリンピック・パラリンピックにとどまらず世界中の人々に多大な影響を及ぼしています。「人が集まることが出来ない」「会食が出来ない」「会いたい人に会えない」という当たり前に出来ていたことが出来なくなっていました。ソーシャルディスタンス、オンラインという言葉に代表されるように、学校での授業の方法、人と人の交流の在り方、仕事では会議の方法等、これまでとは違った感染防止に対応したやり方が当たり前となってきたような気がします。そして、今年の夏休みも子どもたちには不要不急の外出は控えても

らうこととなりました。さぞや、ストレスの高い生活となってしまうであろうと心配していましたが、子どもたちに理解し協力してもらうことができ、職員も施設の中で楽しめるような企画として、流しそうめんやバーベキュー等を考え対応していただきました。恒例の夏祭りは、10 月に延期することとし、一人の感染者を出すことなくこの夏を乗り切ることができそうです。協力していただいた子どもたち、職員、ご家族の皆さま、関係の皆さまに感謝申し上げます。

さて、8 月 27 日に令和 2 年度の全国の児童相談所が児童虐待として対応した件数が 20 万 5029 件に上ったと厚生労働省から発表されました。前年度から 1 万 1249 件増加し、統計開始から 30 年連続で最多を更新しているとのこと。コロナ渦で在宅時間が長くなるなど家庭環境が変化し虐待のリスクが上がる一方で、家庭の中が見えにくくなり支援も届きにくくなるとの懸念も指摘されていますが、コロナ渦の影響は、まだその関連性は確認できていないようです。

令和元年度の実態によると虐待対応 19 万件あまりのうち、児童養護施設に入所したのは、2595 件とのことで、ほとんどのケースは「在宅支援」となり、自宅などで親と一緒に暮らし続けることとなっています。次世代を担う子どもたちが、健全に育成されるよう在宅で暮らす被虐待児童やその家族を支えるしくみを整えていく必要があります。子供の町の理念の一つでもあります「地域の親子に寄り添う施設づくり」を実践していくうえでも、地域の虐待防止や子育て支援に貢献できることを考えていきたいと思います。

「コロナ禍の夏休み」

エンジェルホーム 施設長 堀江豊子

梅雨が明け夏の日差しが照り続ける 8 月、1 年のうちで一番暑く子どもが楽しみにしているイベントが盛りだくさんのはずが、昨年から引き続きコロナ感染者は増加の一途たどり、4 回目の緊急事態宣言が発令されました。施設内行事、夏季活動・夏祭り・各寮舎の外出などは中止となりました。

夏休みを利用して中高生と面談をおこないました。嫌がらず面談の場所に顔を出してくれましたが、あっさり終える子・色々訴える子など様々でした。進路に直面している児童・一学期赤点を取りこの先をあきらめている児童など話を聞くと事ができました。

外出制限もある中、少しでも子ども達に楽しい事をさせたいと「流しソーメン」を企画し、実施した寮舎でのエピソードです。長い筒にソーメンを流したまではよかったのですが、うまくキャッチできず終着場所の風呂場がソーメンだらけになり大変だったと話していました。おいしかった後の後始末は大変だったようです。

令和元年 10 月に厚生労働省から「児童養護施設等のケア形態の小規模化の推進について」の通知があり、「児童養護施設等における小規模グループケア実施要項」の一部改正が示されました。令和 7 年 3 月までに施設は 1 ユニット 6 名定員に小規模グループケア化しなければなりません。昨年度よりワーキングメンバーを立ち上げ、話し合いを重ねながら、本体施設の定員を見直し、今年度女兒 6 名の小規模グループケアを既存の建物を利用して年度内に 1 つ作る予定であります。

コロナ禍でのオリンピックが開催され無

観客となりましたが、テレビでのリモート観戦でしたが、スポーツの原点でもある「楽しむ・あきらめない」事や自分が失敗をしても仲間を称えハグしあう姿は心に残りました。また 24 日からはパラリンオリンピックが開催され、コンセプトが [we have wings] 我々には翼がある。

勇気を出して翼を広げればどこにでも行けるという物語で開会式が始まりました。誰しものが一歩踏み出す勇気とあきらめなければ可能性は繋がる。未来を担う子どもたちには、生で見せてあげたかったと思います。

30 日から分散登校ではありますが、二学期が始まりました。子どもの感染も心配しておりますが、12 歳以上の児童ワクチン接種も始まってきます。早くワクチン接種が終わり少しでも安全に過ごせる日常が戻ることを願っております。



『『どんぐり棟』が完成しました』

社会福祉法人子供の町 事務長 森田 彰

令和 3 年 4 月 26 日、木の香りも清々しい新しい建物が完成し、子供の町に引き渡されました。建設に際し子供の町後援会を始め多くの皆様のご支援をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

今回の新しい建物の特徴は、まず、木造であることです。2 階建てで総面積 391.17 m² の建物を木造で造ることは最近では珍しいことですが、クリニックも併設する子どもたち主役のこの施設では、木のぬくもりが相応しいのではないかとこの考え方に基づいたものです。訪れた皆さんには、威圧感も小

さく、地域に溶け込んだ外観に仕上がったとの評価をいただいています。一部には埼玉県産の杉が使われていることも注目していただきたいところです。

さらに、建設にあたっては、職員の意見を多く取り入れたことがあります。当初建物の名称を「新管理棟」としていましたが、斉之平理事長から「職員のための建物だから"管理"という言葉は相応しくない」という意見が出され、名称が職員に公募されました。最終的には「どんぐりとう（塔）」に決定しましたが、これは園庭にある樹齢 70 年を超える椎（しい）のどんぐりの実を拾うことが、子どもたちの楽しみだと職員から意見が出たことが始まりでした。

もうひとつ心がけられたのは、従業員満足（ES）向上のための仕組みを取り入れることでした。100 名近い職員がありながら、これまでこれといった休憩室がなかったことの反省から、今回、職員がしばし仕事から離れてリフレッシュ

できる部屋を新設しました。「どんぐりカフェ」と名



付けられた施設にはキッチンやコーヒーサーバー等が用意され、いつでも誰でも自由に利用することができます。これからは、もっともっと多くの職員さんに利用してもらいたいと思っています。

さらに、建物の側壁には本格的なボルダリングウォールが設置されました。ボルダリングは今回の東京オリンピックでも注目されましたが、国体種目にボルダリングを取り入れた立役者でもある田中会長（前理事長）が「いつか子供の町からオリンピック選手を輩出したい」という長年の願いが叶

ったものです。

事務棟・診療棟としては 54 年ぶりに新築の「どんぐり塔」。時代とともに子供の町も中にいる人たちも移り変わっていくことになりますが、今回の建物に込めたこのような思いは永く引き継いでいただけると嬉しいですね。

最後に、建設を担当した(株)松永建設様、(株)モリモトアトリエ様、東商アソシエート(株)様には、コロナ禍の中でも細心の注意を払い無事故で工事を完了していただきました。こちらにつきましても厚くお礼申し上げる次第です。

専門職より

「家庭支援に思うこと」

エンジェルホーム

家庭支援専門相談員 中村裕子

今年度から家庭支援をさせて頂いております。20 数年勤務した寮舎から離れ、新たな役割として、現在は試行錯誤の中、日々を過ごしております。子どもと面接をさせて頂いたり、カンファレンスに参加させて頂いたり、児相面接に参加させて頂いたり、分からないながらも諸先輩方にご指導頂きながら出来ることをさせて頂いております。ただ、第三者的な立場になりますので、そこまで子どものことを把握していないことへの歯痒さと、進路にも携わらせて頂いておりますが、そこまで関係性が取れていない私を子どもはどのように思っているのだろうか等、後ろ向きに考えてしまいます。でも、私が思う確かなことは、子どもたちが安心して生活を送り、納得した進路決定が出来るようお手伝いをする、そして、職員さんが

抱えている悩みや不安等が少しでも軽くなるよう、手を添えてあげられるような関わりをしていきたいと思っております。私自身、まだまだ未熟で微力ですが、今出来ることを精一杯させて頂きたいと思っております。

職員寄稿 1

ボルダリングウォール…子どもたちの
楽しみがまた一つ増えました。

「どんぐり棟ボルダリングウォール」

子供の町 副施設長 西村洋平

新事務棟「どんぐり棟」が完成し、その外壁の一角には、田中会長・東商アソシエート様のご厚意によりボルダリングウォールが設置されました。カラフルなホールドが壁一面に設置され、子どもたちはいつになったらボルダリングができるのかと楽しみに待っていました。

子どもたちの要望を受け、遊ぶためのルール作りをボルダリング経験者の職員と行い、ついにどんぐり棟完成記念式典に合わせて、ウォールの使用を開始しました。その際にはルートセットもしていただき、子どもたちは課題に向かって果敢に何度でも挑戦していききました。

その後は職員の見守りも必要なため週 1 回で時間を区切ったオープンとなりましたが、子どもたちは元気いっぱい何度も壁に挑んでいきます。職員も慣れないながらもルートセットをしてみても子どもたちが飽きずに壁に向かえるよう工夫しますが、身体が軽くて柔軟な子どもたちはいとも簡単に登っていくのでした。

緊急事態宣言が出され、せっかくの夏休

みではありますが、ボルダリング活動は休止しています。猛暑の中でもボルダリングをやりたいと話しに来てくれる子も多くいますので、一日も早く様々な活動が再開できるようになることを願うばかりです。

完成式典の際に子どもたちが登る姿を見た田中会長は、「いつかこの壁からオリンピック選手を輩出したいね。」とお話して下さいました。先日の東京オリンピックから正式種目となったスポーツクライミング。この壁で楽しく遊び、競技としてのスポーツクライミングに興味を持ち、メダルを獲得した野口選手や野中選手、または惜しくもメダルを逃した檜崎選手のように世界の壁に挑戦する子が出てくることを楽しみに、私たちも見守っていききたいと思います。



結びになりましたが、どんぐり棟ボルダリングウォールの設置にご尽力いただいた田中会長、そして東商アソシエートの皆様にご場を借りて厚く御礼申し上げます。

職員寄稿 2

コロナ禍の様子…
子どもの気持ち・職員の想い

「コロナ禍の夏休み」

子供の町 すいせん職員 大川内 響

コロナの影響により緊急事態宣言を受け、私たちの当たり前の日常がなくなり、できることが限られてしまいました。外出や外泊、遊びの計画などたくさんの楽しみが失われてしまいました。他にも小学生は夏季

活動がなくなり悲しむ姿が見受けられました。そういった子どもたちが辛い表情や思いをしている姿を見るのは職員も辛い思いだったことを覚えています。

その中でも今しかできないことを職員で考えて思い出を作る努力をしました。

プール外出に行けないためベランダにて小さいプールを毎日それぞれのユニットで広げみんなで水遊び。流しそうめん、BBQ、花火などをして施設内でできる限りのことを実践し、子どもたちの夏の思い出をいくつもつくることができました。

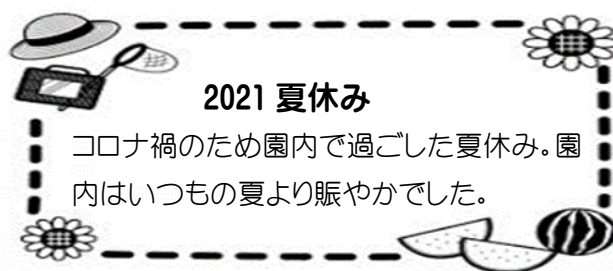
また、給食室から出されるおやつのアイスはもちろん、田中文男会長からいただいたハーゲンダッツも子どもたちは喜んで食べていました。

外出はコロナ対策が十分になされているという理由で映画鑑賞に行きましたが、当寮は念には念をとということで4～5回に外出を分け5人以内の人数で実施しました。

中学生は高校受験を目標に、夏季講習を受ける子、学習ボランティアを通じ学力向上を図るなど各々努力しました。

高校生は遠い高校へ通う子もいる中、アルバイトや部活、面接練習などそれぞれ励み汗を流し、高校生活の貴重な夏休みでしたが、外に出向いて遊ぶことも我慢してくれました。

コロナ禍における生活は、子どもとともに職員にもストレスや恐怖を与えました。その中でも各々令和3年の夏休みを最大限に楽しむことができたと思っています。



2021 夏休み

コロナ禍のため園内で過ごした夏休み。園内はいつもの夏より賑やかでした。

「ぼくの夏休みの思いで。」

たんぼぼ 中3 T.M.

夏休みのはじめのあたりにたんぼぼと、ひまわりといっしょにBBQをやりました。そこでてつだいをしました。

てつだいのなかで一番がんばったのは、火おこしをがんばりました。

夏休みの後半にぬりえをやりました。ぬりえをしょくいんがよういしてくれて、とってもうれしかったです。

ぼくは、大人とようふくを買いにいて、ふくをかうときになやみました。

夏休みの前半にオリンピックをテレビでみて、とびこみのせんしゅのきんにくがすごいいと思いました。



「2021 年 夏休み」

子供の町 あおば 小3 R.S.

ぼくは、8月24日にバーベキューをしました。バーベキューの準備は大へんで分からない事もあったけど、お肉とジュースの準備を頑張った分と一っつも美味しかったです。さいごに花火をやりました。せんこう花火をやって、30秒くらいもちました。はじめての花火でとてもおもしろかったです。バーベキューをやる前、雨ふらないか心配だったけど、雨がふらなくて良かったです。次も雨がふらないで楽しいバーベキューをやりたいです。

「なつやすみの思い出」

エンジェルホーム 6 寮 小 4 R.H.

この夏はクレヨンしんちゃんの映画の DVD をたくさん見ました。いきりおにぎりがかっこつけているところがおもしろかったです。あと、ちしおさんのかばもおもしろかったです。ほかにはりょうの前で花火をしました。楽しかったです。

「私の最後の夏休み」

エンジェルホーム 5A 寮 小 6 M.T.

みなさん、今年の夏休みは楽しく過ごせましたか。私は楽しく過ごせました。これから書くのは、私が夏休みを楽しく過ごせた理由です。私のたくさんある中の一つをしようかします。その一つは、私のまわりの方々のおかげです。コロナウイルスのканせんぼうしのためつまらない日が多かったのですが、まわりの方々が遊んでくれたり、話を聞いてくれたりしたので楽しく過ごせたと思います。私はいろいろな事を楽しく過ごすには、ポジティブに考えて、何事も楽しんで過ごすことが大切だと思います。

「夏休み楽しかったこと」

子供の町 さくら 小 4 Y.Y.

わたしは、夏休みにベランダで、プールでたくさん遊びました。



チューペットを食べました。

花火もしました。いろいろな花火をしました。楽しかったです。

「夏休みの思い出」

エンジェルホーム 9 寮 小 6 H.O.

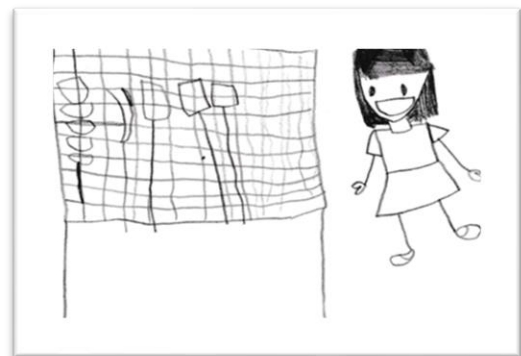
ぼくの、夏休みの思い出は、ゲームとサッカーです。

ゲームは、「荒野行動」をやりました。荒野行動をしていつも通常で 1 位をとりたいけれど、あんまり 1 位がとれません。それで、きのうは高校生 2 人とやって 1 位をとりました。1 位をとるとうれしいです。

そしてサッカーは、たまーに中川さんとやります。中川さんとやると、中川さんは上手くて勝てません。中川さんとサッカーをやると楽しいし、おもしろいです。負けるとくやしいけど、もっとやりたくなります。



ぼくも、サッカーをみんなにおしえたりできるくらい、上手になりたいです。



「夏休みの思い出・バーベキュー」
子供の町 ひまわり 年長 F.T.

「らしくない夏休みを過ごして」

エンジェルホーム 5A 寮職員 菅野 貴

今年の夏休みも、コロナに翻弄される結果となりました。寮外出や夏季活動、施設球技大会に夏祭りまで、軒並み中止や延期となり、夏のイベントはほぼないと言っても過言ではありませんでした。子どもたちが楽しく過ごせるような活動を行えなかった

ことは、職員にとっても苦しいものだったのではないのでしょうか。

個人的には、オリンピックを見て、甲子園を見て、最近ではパラリンピックも見始めた私は、テレビを見ながら、エアコンのきいた部屋で子どもと遊ぶ日々を過ごしました。来年はもう少し、移動できる範囲もできる内容も広がることを期待したいと思います。

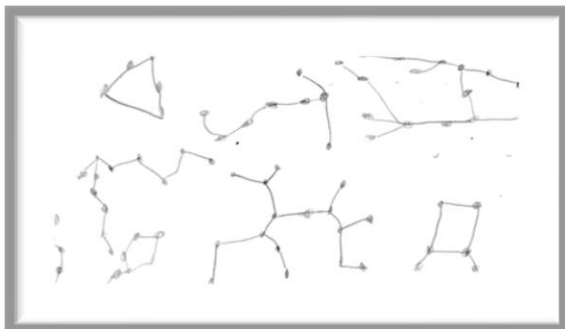
「新たな夏」

子供の町 3 寮主任 橋本直樹

今年もまた暑い夏がやってきました。しかし、いつもとは違い何もできない寂しさを感じる夏になっています。

そんな寂しさ感じる夏ですが、リモートが普及し様々な事がリモートでできるようになり新たな生活体系になりつつあります。また、今年は東京オリンピックを無観客で開催され、どの競技も熱く心動かされる戦いを繰り広げ、それを高いテクノロジーでのリモート観戦をすることが出来ます。

今年の夏、私がしたいことはリモートを駆使し新しい楽しみを見つけ、未知のウイルスに感染することなくオリンピック・パラリンピックをリモートで観戦し、何もできなく寂しく感じていた夏をいつも以上に熱い夏にして過ごしていきたいと思います。



「夏の星座」
子供の町 わかば 小 3 T.M.

職員寄稿 3

～働きやすい職場を目指して～

「産休を終えて」

子供の町 たんぽぽ職員 榎本実咲

昨年、3 月下旬以降コロナの感染者数が増加し、妊娠中の不安な日々を過ごす中、職場の配慮で産休を早めていただき感謝しています。1 年近く職場を離れ、久しぶりに子どもたちと顔を合わせ、背が伸びている子や声変りをしている子。驚いたと同時に「戻ってきてよかった」と嬉しい気持ちになりました。ただ時短勤務で担当を持たず、子どもたちの関りが減り寂しさを感じます。ですが時短勤務だからこそ、今このように職場復帰ができています。

育児と仕事の両立は想像以上に大変ですが、育児後の職員個人の想いを考慮してくださり、職員方の支え、また両親の支えがあって働くことができています。叶うならば、自分の子どもを育てながら仕事できればな…。そんなことを思いながら日々悩み、それでもこの仕事は自分も成長する機会を与えてくれる、やりがいのある仕事だと感じています。

あれこれ

◆ 5 月 19 日 < どんぐり塔へ引っ越し >

朝から旧事務所からどんぐり塔への引っ越しが始まりました。机やロッカーなど事前に配置場所の計画を立てていただいていたこと、業者の助っ人もいて、予定通り夕方には無事、終えることができました。

◆ 5 月 21 日 < NTT ドコモさんによる

社会貢献活動＞

NTT ドコモの社員 3 名の方による、社会貢献活動として、倉庫内の片づけと除草作業を行なっていただきました。今回で 3 回目となる活動で、社員の方のパワフルな動きに感服です。ありがとうございました。

◆ 6 月 26 日＜後援会役員会、定時評議員会、理事会開催＞

後援会の役員会が開催され、令和 2 年度事業報告と令和 3 年度事業計画が承認されました。また、新型コロナウイルスの感染拡大のため恒例のバザーは中止となりました。定時評議員会が開催され、令和 2 年度の事業報告の承認と新しい理事の選任がされました。続いて新しい理事による理事会が開催されました。同日に、どんぐり塔の建設にご尽力いただいた、「後援会」「松永建設」「モリモトアトリエ」「東商アソシエート」「飯島

せていただきました。

◆＜卒園生来園＞

○ 5 月某日、20 歳代男性。「S 県で〇〇関係の仕事をしている。将来は自分の会社を立ち上げたい。」

○ 6 月某日、20 歳代男性大学生。「相談援助実習が始まる。将来は、自分の施設を作りたい。」

○ 6 月某日、20 歳代女性大学生。「将来のことを考え、他の施設でアルバイトを始めた。」

* 皆さん、自分の夢に向かって頑張っていることがわかり、元気をもらいました。

◆＜夏休み、中高生園長面談＞

夏休み期間に中高生との面談を実施しました。一対一で個別に話を伺う機会はとても貴重な時間でした。子どもたちの意見を出来る限り施設運営にも生かしていきたいと思います。



R3年5月～R3年8月に寄付金・寄付品を頂いた方々(順不同・敬称略)

BNR
安部 祐一
荒木嗣則
井上修
内堀医院
岡野米菓
荻野純子
柿沼しのぶ
春日部市社会福祉協議会
春日部市役所
春日部地区更生保護女性会
(株) 光商事
UYEKI
(株)イハラ
桑原建作
古賀康子
コストコ新三郷倉庫店
西郷敦子
坂口三郎
笹希美
佐藤明宏

佐藤彩有里
佐藤美都里
三州製菓(株)
白石和代
鈴木美子
滝口 典子
田中文男
樽川輝昭
中嶋都子
中条紀孝
中本なほ子
中山 裕子
根岸昇
長谷浩一
浜友観光(株)楽園大宮店
早瀬三洋
ピーアール(株)
齊之平伸一
広松三和子
星野総合商事(株)
松川美奈子

松島康生
松本伸一郎
矢澤明
(有)東武管工設備
楽園 伊勢佐木店
楽園 南越谷店
竜貴会
和泉英仁
渡邊大智
伊藤正一
(株)イシモ建設
(株)ゴルフドゥ
(株)太平 内牧夢らんど
(株)太平 かすかべ夢らんど
(株)太平 平方夢らんど
(株)太平 ホテルエルアンドエル柏
(株)第四北越銀行
(株)チュチュアンナ
(株)フレーベル館
(株)リバティエステート
(有)東武管工設備

子どもたちのために、たくさんのご支援ありがとうございました

* 子供の町のホームページを開設しております。是非ご覧ください。

<http://kodomonomachi.jp/>